

情報公開文書

研究課題名	服薬自己管理モジュールの有用性とアドヒアランスに及ぼす影響についての調査
研究体制	■長野赤十字病院が責任研究機関となる
研究責任者	責任研究機関 所属 <u>薬剤部</u> 氏名 <u>岩田 昌紘</u>
研究期間	(西暦) 承認日 ~ 2021年12月
研究の概要	<p>(研究の意義・目的)</p> <p>精神科における薬物療法は治療の中心であり、再発・再燃を防ぐためには、長期間に渡って服薬を継続し、良好な服薬アドヒアランス（患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること）を保つことが重要です。しかし、副作用の出現や病識の欠如、認知能力の障害等の要因で服薬を中断してしまうことがしばしばみられ、臨床上問題となっています。</p> <p>米国では統合失調症などの慢性精神障害者が地域で自立した生活ができるように、自身の知識と様々な問題への対応能力を高めることを目的にリバーマンらが自立生活技能プログラムを開発しています。そのプログラムの中に、服薬に関する技能を学習ツールとしてまとめた服薬自己管理モジュールというものがあり、その有用性が報告されています。</p> <p>長野赤十字病院精神科病棟では、2011年10月からチーム医療の一環で、服薬アドヒアランス向上のため、医師から依頼があった患者に対し福島医大版服薬自己管理モジュールを導入しています。</p> <p>今回、服薬モジュールを評価するため、チームの介入による薬に対する患者の理解度と服薬アドヒアランスに及ぼす影響について調査します。</p> <p>(研究方法)</p> <p>服薬自己管理モジュールの前後で実施した2つのテスト（①薬の理解度②服薬アドヒアランスと関連する）の変化を調査し、服薬自己管理モジュールの有用性を検証します。</p>
試料・情報	<p>(試料・情報の項目)</p> <p>カルテデータ</p>
研究対象者	<p>2016年4月～2020年3月の期間中、当院で服薬自己管理モジュールに参加した患者</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
個人情報の保護	<p>収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で使用いたします。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定できない形で行います。</p>

お問い合わせ先	<p>〒380-8582 長野県長野市若里五丁目2番1号 長野赤十字病院 所属 <u>薬剂部</u> 氏名 <u>岩田 昌紘</u></p> <p>TEL : 026-226-4131 (代表) FAX : 026-228-8439</p>
---------	---